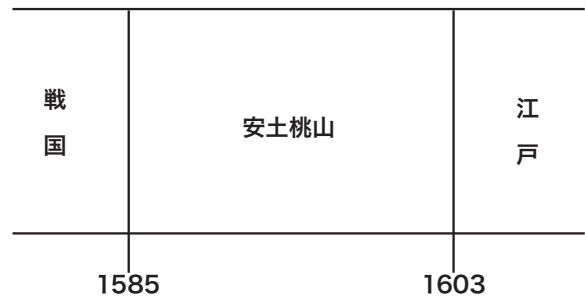
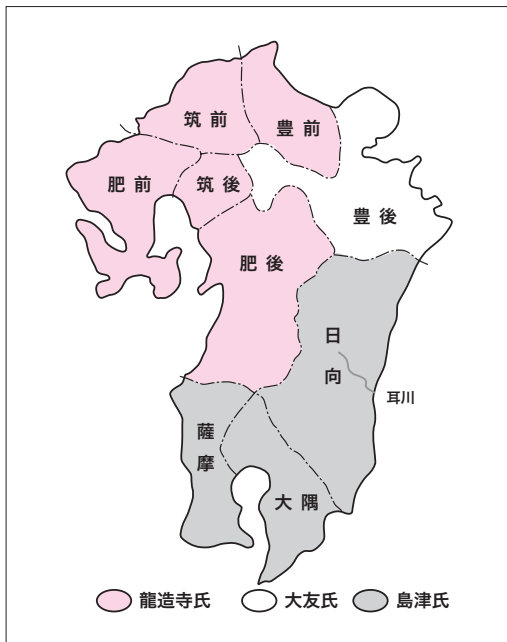


10. 安土桃山時代

織田信長が安土に城を築き、全国統一への道を進めていたころと、豊臣秀吉が雄大で堅固な大坂城を本拠地にして全国を統一した時代を、安土桃山時代といいます。



(1) 秀吉の九州平定



天正 13 年ごろの九州の大名勢力図

信長が、近江国（滋賀県）の琵琶湖の東に安土城を築いた 2 年後の天正 6（1578）年に、日向国（宮崎県）を支配しようとした大友宗麟の軍と、これを阻止しようとする島津義久の軍が耳川（日向市）で戦いました。「耳川の合戦」です。義久軍は大勝しました。

そのころの九州は、大友宗麟、龍造寺隆信、島津義久の三つの勢力が対立していましたが、義久軍は、その勢力を北九州へと伸ばしていきました。

<太宰府管内志>

天正十三年十月中旬筑前秋月佐馬助種実為薩摩島津氏幕下 因之……豊前城井、長野、高橋、其外豊前両国之士為島津幕下

- 読み方…天正十三年十月中旬、筑前の秋月佐馬助種実は、薩摩の島津氏の幕下と為る。これによって、豊前の城井、長野、高橋、其の外、豊前両国の士は島津の幕下と為る。
- 大意…秋月種実が島津義久側につくと、城井、長野、高橋らの領主たちは宗麟から離れて義久の家来になった。

(2) 秀吉、九州へ出兵

「耳川の合戦」に大敗し、南・西・北の三方からせめられる形になった宗麟は、天正 14 (1586) 年 4 月、大坂城の秀吉を訪ね、義久軍の征討をお願いしました。

九州での島津義久の動きを苦々しく思っていた秀吉は、天正 14 (1586) 年 8 月、毛利三軍（毛利輝元、吉川元春、小早川隆景）に、義久方の小倉城主・高橋元種の攻略を命じました。

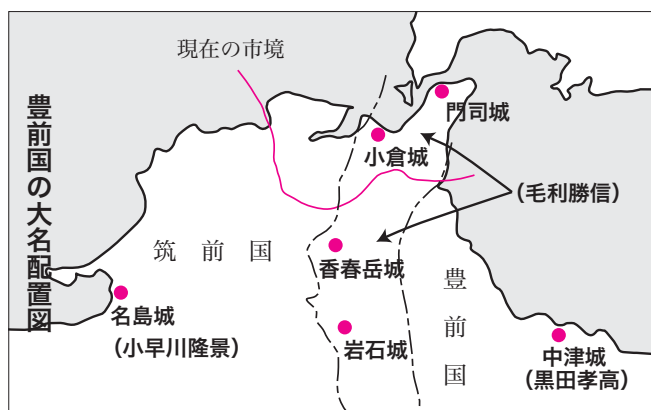
毛利三軍が門司城を攻め落とすと秀吉は、黒田孝高（如水）、森吉成（後、改名して、毛利勝信）を輝元のもとに送り込みました。元種軍も必死に抵抗しましたが、ついに秀吉に従うことを誓いました。

天正 15 (1587) 年 3 月 1 日、大坂城を出発した秀吉は、3 月 28 日に小倉城に入りました。

小倉に入城した秀吉は、25 万余の軍勢を二分し、島津義久と対決しました。秀吉軍は、北豊第一の堅城を誇る岩石城（添田町）を半日もかからずに攻め落とすなど、戦いは圧倒的に優勢で、5 月 8 日に義久は秀吉に降伏しました。

こうして秀吉による九州平定が成りました。

(3) 秀吉による大名配置



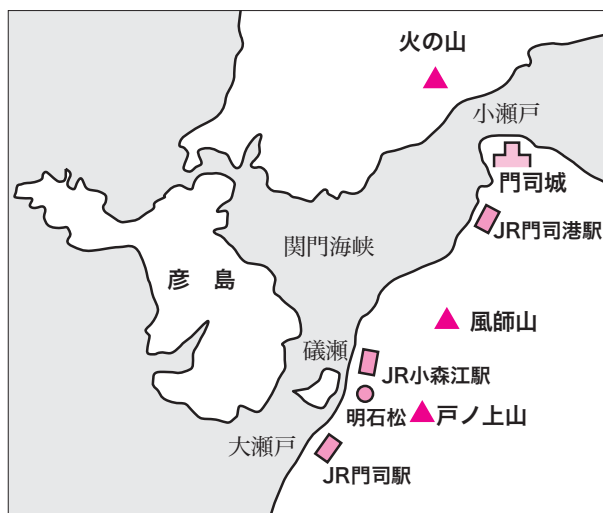
九州を平定した秀吉は、大名の配置変えを行いました。

軍師の黒田孝高（如水）を豊前国中津 15 万石の城主に、家臣の森吉成を小倉 6 万石の城主にとり立てました。

☒ 秀吉、大里の海で遭難

文禄元 (1592) 年 7 月 21 日、肥前国名護屋城（佐賀県鎮西町）にいた秀吉は母の急病を知り、急ぎ大坂にもどることにしました。

秀吉の船が関門海峡の西の入り口（大瀬戸）を過ぎようとしたとき、激しい突風と潮流に見まわられて、「篠瀬」と呼ばれる岩礁に船は激突してしまいました。



「篠瀬」付近の地図



シーボルト肖像画

秀吉は、大破した船から海に投げ出されましたが、幸運なことに一命を取りとめることができました。

しかし、この時、秀吉船の船頭であった明石与次兵衛^{あかしよじべえ}は、事故の責任をとって切腹しました。

その後、この「篠瀬」は誰言うことなく、「与次兵衛ヶ瀬」と名付けられました。

また、慶長^{けいちょう}5 (1600) 年、領主となった細川忠興^{ただおき}は、この岩礁の上に石柱を建てて、航行安全の目印としました。

<シーボルトの「江戸参府紀行」>

記念碑そのものは非常に簡素である。切り立った岩の真ん中に立っている約2メートル50センチの高さの四角い柱で、四面からなるピラミッド形の飾り屋根があって、碑名はない。

シーボルトが見た石柱は、文政11 (1828) 年に嵐にあおられた潮流によって、海中に流されました。

それでも、柳ヶ浦^{さとびと}一帯の里人たちによって、松茸^{たけ}型の石柱が建てられました。大正4 (1915) 年ごろ、日本海軍が船舶の安全航行のために岩礁を爆破して取り除いて、石柱を海中に捨てました。

その後、昭和29 (1954) 年、石柱は海底から引き上げられ、今は、和布刈公園入り口近くにあります。



和布刈公園の上り車道入り口近くに建つ与次兵衛塔